

共同研究プロジェクト

2015 年度研究所事業報告

「映像情報のカテゴリー化をめぐる研究」

研究代表者

大井 眞 二（日本大学法学部新聞学科教授）

本共同研究は 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災後の TV 放送の報道内容を分析し、災害時におけるニュース報道及び他の関連する映像情報を量的、質的両面から研究する上で必要な基盤整備としてのデータベース構築を目的として、平成 25 年度からその研究を始めた。

現在、研究代表者らは 2011 年 3 月 11 日の発災から今日に至るまで、東京キー局（6 局）の大震災に関わる TV 映像の記録・保存を進めており、映像資料データ量は 80 テラビットを超えるレベルに到達している。この映像記録は JCC の Max Channel だけでなく大量の外付け HDD に蓄えられている。

これらの映像データは東日本大震災という未曾有の危機を保存したという事実のみの価値だけではなく、その後も震災関連の TV 映像を長期間映像データとして保存していることに、今後のジャーナリズム研究およびマスコミュニケーション研究の分野にとって大きな価値をもつ。

本研究では平成 26 年度に引き続き、①映像データ保存とニュース及び他の関連する映像情報の分類を初めとするデータベース構築のための作業を行い、その上で、②報道内容の質的、量的分析を進めた。②の作業も平成 26 年度の継続であるが、分析をさらに精緻にするための映像情報の内容を分類し、インデックス化する作業を先行して行った。

加えて平成 27 年度は、この貴重な TV 映像データを研究活動に活用するため、① TV ニュース報道及び他の関連する TV 映像データの追加及び逐次保存と、これまで記録・保存した TV ニュース報道及び他の関連する TV 映像情報の分類・整理というデータベース構築のための作業を行い、その後②映像情報の内容の量的、質的な分析を通じて、東日本大震災関連のニュース報道など TV 映像情報の特徴を明らかにするための基礎的研究の作業を継続している。

こうした作業にあわせて、今年度本共同研究の小括を行うための研究企画を実施した。これはシンポジウムであり、平成 28 年 2 月 20 日に「2015 年度連続シンポジウム 地域ジャーナリズムの課題と可能性(2)―東日本大震災が地域メディアに問いかけたもの―」と題するシンポジウムの開催であった。被災 3 県から IBC から宿輪智浩氏、福島テレビの糠澤修一氏、石巻日日新聞の武内宏之氏、NHK 報道局の古澤健氏をパネリストに迎え、長時間にわたって有意義な議論を行うことができた。

本共同研究にとって、外部資金の導入は研究プロジェクト遂行のための重要な課題であったが、幸い本年度は「公益財団法人放送文化基金」の研究助成を受けることができた。この研究助成は、「映像アーカイブを利用した震災・原発事故報道に関する実証研究」と題するもので、本共同研究の研究代表大井眞二を座長とし、他大学や研究機関の研究者（NHK 放送文化研究所の原由美子氏、

法政大学の西田氏善行氏、加藤徹郎氏)を研究協力者に仰ぐものである。本年度は、本共同研究者にこれら外部研究協力者を加えて定期的に研究会を開催し、研究の進捗をはかっている。

さらに「放送文化基金」の研究助成を得て、これまで本共同研究プロジェクトの課題であったメタデータの収集と分析のための機器を導入することができた。これはJCCが提供する「RCNアーカイバー」と称する機器であり、本共同研究に大いに寄与するものである。この「RCNアーカイバー」によって、膨大な映像データの分類・整理の作業は急ピッチで進んでいる。

また本共同研究プロジェクトは、さらに平成27年、「映像アーカイブを利用した震災・原発事故報道に関する実証研究Ⅱ」を研究課題として、「放送文化基金」の「継続研究」の助成をうけることができた。この助成によって本共同研究の大いなる進捗をはかっていきたい。